

新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第3回）
議事要録

日時 平成22年6月21日（月）午後7時05分～午後9時10分
場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
出席 小澤紀美子委員（会長）、水谷俊博委員（副会長）、村井寿夫委員、藻谷征子委員、
塩澤誠一郎委員、木村文委員、石黒愛子委員、千綿澄子委員、島森和子委員、
高石優委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、岡田敬一委員、飯村雅洋委員、
渡部敏夫委員、事務局（木村浩クリーンセンター所長、和地稔課長補佐他）、
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）
欠席 高橋豊委員
傍聴 4名

1. 5月16日エコフェスティバル報告

委員より5月16日（日）にクリーンセンター内で行われた武蔵野クリーンセンター運営協議会25周年記念事業「むさしのエコフェスタ2010」で実施した、ワークショップ「未来のクリーンセンターを作ろう」で、来場者の方々から出された意見について報告。

イベント時に足湯の脇で行ったため、足湯や、やすらげる空間に対する希望が多く、また、雑談の中でフリーマーケットなどのイベントが行いやすいように、外部電力を付けるなどの配慮や、時計があったり、だれでもトイレがあれば良いなという事が出てきたとの事。他に、23区の清掃工場等の活動内容の紹介、清掃工場から地域への還元施設として小村大の足湯を紹介。煙突のデザインや、リサイクルプラザなどの付帯施設について、やすらぎの場となるための広場などを例示。

- ・ **委員** 足湯の要望が多く寄せられたのは、エコフェスティバルにおいて臨時に設置されており、多くの参加者が体験したためと思われる。また、安全対策についても多くの関心が寄せられた。

2. 施設・周辺整備事項の整理

事務局が委員より出された意見を(1)施設整備、(2)エリア整備、(3)周辺まちづくりと分類のうえ付箋に記入し、前方の地図へ貼り付けるワークショップ形式で進行。

- ・ **委員** 足湯を中心とする癒しのスポット、生ごみ堆肥で作られた野菜やハーブでお茶が飲める食堂やカフェ、学べる場所や、市内エコ関係のボランティアがネットワークの拠点として使用可能なスペース、それらの関係が集まって情報誌を作っても面白いと考える。
- ・ **会長** 足湯はお湯を使うということでクリーンセンターの機能にも適している。散歩の後に寄れる癒しスポットにもなる。子供達の学習の場とネットワーク拠点の設置、食堂

は循環の思想を取り入れることになる。子供達が資源循環を学び体験し経験することになる。

- **委員** 足湯のみではなく、岩盤浴も良いのではないか。若者から高齢者まで汗を流してすっきりし、お腹が空いたら気軽に立寄れるカフェや武蔵野水の販売も良いのではないか。
- **委員** 緑町コミュニティセンターについて意見が出された。二階建てであってもエレベーターを設置し、車椅子でも使いやすい施設にしてほしいと強い要望が出されている。コミセンのスペースが狭いので、花が植えられない。テニスコートを緑町都営アパート跡地に移し、コミセンスペースを広く明るくしてほしい。昨年からスカットボールの練習に多用されているため、一般の方が使用できない。また、駐車場を増設してほしい。
- **会長** コミュニティセンターが移動可能かは不明だが、時間的なスケジュールもこの計画には含まれると思う。要望を出されなければ議論も出来ない。
- **委員** テニスコートを移動することは可能ではないか。
- **会長** 移動の順番が重要である。最初にクリーンセンターの移動がある。
- **委員** 緑町3丁目の意見として、余熱を利用したパン工場を作っていただきたい。コミュニティセンターの建替えは賛成だが、緑町3丁目の住民も利用できるように、現位置より遠くに設置するようなことは望まない。また、市道41号線の歩道を拡張してほしいという希望がある。具体的には、つつじの植え込み幅の工夫や、電柱等の地中化を希望している。その他に、ムーバスのルートを増やせないということならば、関東バス等のルートを見直してほしい。また、緑町3丁目から五日市街道に抜ける方法が少ない。
- **会長** クリーンセンターだけの問題だけではなく、地域的なデザイン、周辺環境の整備の希望も入っている。時間的なプログラムの優先順位もあるため、市役所の内部で関係部署が連携して進めてほしい。まちや施設だけでなく、時間のデザインも重要となる。
- **委員** この周辺には飲食施設が少ないと考えており、カフェや温泉には賛成である。クリーンセンターの周辺に植物を植え、それを見ながらお茶を飲むような施設も考えられる。杉並工場のようにリサイクル品を上手に使える施設も望ましい。フリーマーケットは人気が高く、住民の間にリサイクルの輪を広げたい。
- **会長** リサイクルをすることで資源の活用を進めるということであるが、その前提として、ごみを買わない増やさないと徹底する必要がある。
- **委員** ごみの基本は、脱焼却脱廃棄と考えている。100年前を考えると、ごみは現在よりも少なかったのであるから、それを考えるとごみは減量可能であると考え。その思想を持つ中核施設がクリーンセンターであるべきと考える。そのための知恵を集約することが協議会の意義であると考え。ごみ行政は武蔵野市から学ぶと言われるような仕組みを整えたい。
- **委員** ごみ処理施設は持ち込むだけでなく、持ち出しできるように、知識の持ち帰りも含めた持ち帰る機能を追加したい。自区内処理の考えを広めるために、クリーンセン

ターにそのような知識を広める機能を付加したい。また、ごみ焼却熱を周辺の住民が使えるような施設を設置していただきたい。

- **会長** 透明なパッカー車を作り、子供達の教育に使用してはどうか。子供の意見で、いつでも見学できる施設の要望があるが、透明なパッカー車等で学習するということも含まれるのではないか。
- **委員** 前述の「持ち出す」と同じような意見で、焼却ではなくリサイクルのように再生産を考えてはどうか。緑町3丁目のパブリックコメントのように、クリーンセンターにおける雇用の考えていくことも重要であると考え。現クリーンセンターで働いている職員の中には収集を行う若い職員も多いと思われる。そういう職員の雇用の場を考える必要もあると考え。クリーンセンターの立地特性を重視し、北エリアにおける建て替えに覚悟を持って決めてほしいと市にお願いしている。市長は決めなかったが、その考えがこの協議会に託されていると考えている。水色の付箋（エリア整備）に該当すると考えられるが、まちづくりとして、低炭素型のモデルとする考え方もある。そのためには具体目標を示すように言われており、送電ロスが少ない電線の地中化等を考えるなどあえてごみを焼却している地区で二酸化炭素を減らすようにする考え方もある。
- **会長** 今の意見で、一番上位のコンセプトが示されたと考え。
- **委員** エリア整備と一体となってしまうが、北エリアにおいて、ふさわしいまちづくりを行うのであれば緑町の都営住宅の未利用地活用を盛り込んでいただきたい。中央公園における緑の活用が言われているが、都市計画の公園として緑町への還元施設として何か整備いただきたい。また、民間には売却するという考えは好ましくない。
- **会長** ここで結論を出すのは難しいが、未利用地活用の考えは重要と考える。あとは市が他の部署等と検討し、実現していただきたい。
- **委員** 都所有の土地の使い方についても検討いただきたい。リサイクル関係では、家具等再利用できるものが数多くあり、シルバー人材センターで受け入れ可能な量を超え、収容できない状況となっているため、大きめの規模を設定していただきたい。それに伴い雇用も増えると考え。また、コミュニティセンターや団地において、住民が集える場所がないため、大きなホールなどの施設で、一定規模の集会所ができると望ましい。焼却熱はごみの減量に伴い、減少すると考えられる。そのためにも屋上等における太陽光発電、風力発電を検討する考え方もある。
- **委員** 緑町コミュニティセンターへの移動にムーブスを通してほしいと意見があった。
- **委員** クリーンセンターのこの場所への決定は、苦渋の決断によるものである。これからの人たちが歴史的な経過を検証できることも重要であると考え。ごみ博物館など学習できる場もよいと考える。現施設は海外からの視察者も多く、用地選定段階から市民が係わることは珍しいと言われる。また、煙突については、鯉のぼり、七夕飾り、クリスマスツリーなどを飾るといったアイデアも考えられる。
- **委員** アイデアをメールで送っているがフォローがないように感じる。どのように扱わ

れているのか。

- ・ **事務局** 委員からのメールについては再度確認する。
- ・ **市委員** 所有地の 10,000 m²の使い方については、具体的に決まっていない。東京都住宅局の資産運用部で検討しているが、武蔵野市としては公園として残したうえで変電所も残して欲しいと要望は出している。また、生態系の調査は進めている。
- ・ **副会長** 良い意見が多いが、黄色の付箋（施設整備）の意見に関しては、具体的な場所が決定していない段階では、使用方法を固めずに柔軟に考えるべきではないか。市役所が近いということが利点であるならば、行政の方も含め、活発なまちづくりの議論を行ってはどうか。
- ・ **会長** クリーンセンターを拠点として、ごみ減量に関する情報を発信してはどうか。スコットランドのグラスゴーで建物をリニューアルし、デザイン系の若者が使っている例がある。昔の食器等も大事に使用され、まち全体を活かすような施設となっている。クリーンセンターをまちづくりセンターのような施設とするアイデアは重要である。
- ・ **委員** 東京都が二酸化炭素の排出量を計測した結果、東大が一番多く、都庁も上位に入っている。その結果からすると市役所と NTT 研究所も多量に排出しているのではないか。また、NTT 研究所には資料室を市民が使いやすいように開放するなど協力していただきたい。加えて NTT 側で歩道がない部分に遊歩道のような歩行以外でも利用が出来る部分を作ってほしい。
- ・ **会長** 都庁は通路が多く、大学は 24 時間稼働しているため排出量が多い。エコスクールとして施策を行っても大きな削減はできていない。OECD が日本の環境対策レポートを翻訳しているため、興味があれば読んでいただきたい。顕熱だけでなく、潜熱の応用を考えてもよいと考える。
- ・ **委員** 野球場やテニスコートは残していただきたい。災害時に空き地が必要であると考えられるため、野球場は地域防災で活用していただきたい。また、地下に備蓄庫、ベンチを防災用ベンチにするなどのアイデアもある。
- ・ **委員** 新しいクリーンセンターは誰でも見学しやすく、安全対策をしっかりとしたものにしていただきたい。

3. 6月28日(月)合同会議に向けて説明

第4回施設基本計画策定委員会の資料を配布し、事務局より説明を行った。

- ・ **会長** 白煙と煙突高さについて、委員会の意見を聞きながら議論に加われるようにしたい。
- ・ **委員** 実証実験はいつ実施するのか。
- ・ **事務局** 12月くらいに行う予定である。
- ・ **委員** 杉並清掃工場は白煙防止装置を設けていないのか。
- ・ **事務局** 杉並清掃工場には設置されていない。

- **委員** 現在、蒸気の何%をクリーンセンターが使っているのか。また、新クリーンセンターにおいてはどのようになるのか。
- **事務局** 現施設は、12 t / h 発生するうちの 4t を周辺施設で使用している。1 炉運転の場合は 6t 程度としかならないため、市役所のみ蒸気を送っている。現在の蒸気の使用は 24 時間ではないため効率的ではなく、発電等も考慮のうえで熱エネルギーの使用法は総合的に考えていきたい。
- **委員** 残りの 8t の蒸気はどのように使用されているのか。
- **事務局** 白煙防止装置と蒸気復水器に使用している。
- **委員** 新施設においては、蒸気は発電のみに使用するのか。
- **事務局** これから協議していきたい。
- **委員** 協議会の場合は、余熱の使用方法を検討することにおいても重要であるとする。
- **委員** 駐車施設はこれ以上増やさないとされているが、使用料の値上げ前後での稼働率を教えていただきたい。
- **会長** 市としては、環境に配慮した施策を実行しなければならない。一方で、高齢者と子供を持っている親は、街の中におけるムーバスなどの機動性が必要である。次回の合同意見交換会で議論できればと考えている。

閉会